

## 平成 25, 26 年度における学校教育課程の取り組み

学校教育課程長  
池田 敏和

### 1. はじめに

学校教育課程においては、平成 22 年度入学生から、二重履修を解消するため学部 3 年生春学期を教育実習の期間として位置づけることになり、また、平成 25 年度入学生から、小中の教職科目を分離したカリキュラムが実施されることになった。

このような改革の中で、学生の学びをいかにすれば豊かなものにしていけるか、また、教職の魅力をいかに感得してもらうかが重要な論点となってきた。本稿では、平成 25, 26 年度において、特に学部 3 年生の春学期を充実したものにするための取り組みを 2 点紹介することにする。

### 2. 先輩から後輩へのアドバイスを基にした 3 年春学期の計画と振り返り

平成 25 年度より、3 年春学期をいかに過ごしたかのアンケート調査を基に、先輩（学部 3 年生）から後輩へアドバイスを書いてもらい、後輩（学部 2 年生）に紹介することにした。昨年度は、7 つの事例を紹介し、それを基に、2 年生に春学期の過ごし方について計画を練らせている。例えば、後輩へのアドバイスに関わる事例を二つ取り上げると下記の通りである。

事例 1：ぜひ、小学校でのボランティアに行ってみてください。子どもたちにどう接すればいいのか、現職の先生方が一日をどのように過ごしているのか、学校の教室配置はどうなっているのか等々、実習の際大事な情報で、かつ実際に学校に行ってみないとわからないことというのが意外とたくさんあります。事前のそういった準備があるのとないのでは、実習の充実度が全然違うと思います。最後に、事前にやっておくこととして一つアドバイスすると、教材研究をするよりも、まず自己紹介を考えておくといいと思います。子どもたちは初めての先生に興味津々で、とてもよく観察しています。初めにハキハ

キとインパクトのある自己紹介ができると、子どもたちと打ち解けるのにも時間がかからないのではないのでしょうか。

事例 2：自由に使える時間は沢山あるけれど、実際にはあっという間に終わってしまった印象でした。ある程度予定をたてて目標を持って過ごせるとよいと思います。実習の準備としては何をしておいても損はないです。実習校との打ち合わせで学年や授業進度を把握し、予習して面白そうな授業展開を考えてみる。きれいな字の練習や、漢字の書き順を覚えなおす。少し遠出して、子どもの興味を惹く話が出るような経験を試してみる。体力をつくる、などなど・・・机に向かって出来ることだけではないはず。また、実習の期間が各自異なっているので、先に始まっている人から様子を聞くことが出来たり、後から始まる人にアドバイスが出来たりします。たまには息抜きとして大学の友達同士で集まると、色んなエピソードを語り合う場になって面白かったです。実習で各教科のあり方と真剣に向き合い、様々な子どもたちそして先生方と時間をかけて関係を築いていく過程で、教師という職に対する考え方がきっと広がると思います。

これらの事例を読みながら 3 年春学期の計画を練ることは、2 年生にとって効果的であったと言える。「3 年春学期の過ごし方について、先輩のメッセージを読んで、ある程度やりたいことは決まりました」、「多くの先輩は実際に小学校でボランティアをしていたみたいなので、挑戦してみようかと思う」、「今回の先輩方のメッセージを読んではっきりとした答えが見つけれられた気がする。まず、教育実習に向けての事前準備をしっかり行いたい」等の感想が数多く見られた。自分で計画を立てて勉強することは、生涯にわたっての自己学習力につながるものであり、さらに充実させる方法を探っていく必要がある。

### 3. 各専門領域における取り組み

平成 26 年度より、3 年春学期における大学内外における学習をさらに充実させるために、各専門領域において、新たな取り組みを企画し実施していくことにした。例えば、技術専門領域では、国大卒業生を中心に県内の先生に講師をお願いし、学部生に向けて、次のような学校運営、技術教育に関わる講義を行っている。

#### (1) 「学校運営の実際」

横浜市立緑が丘中学校 校長 高浪文隆 先生  
(神奈川県技術・家庭科研究会 会長, 本学 OB)

#### (2) 「技術科の指導の実際①」

藤沢市立六会中学校 総括教諭 川崎武晴 先生  
(神奈川県技術・家庭科研究会 書記, 元附属鎌倉中教諭, 本学 OB)

#### (3) 「技術科の指導の実際②」

横須賀市立公郷中学校 教諭 影山聡史 先生  
(神奈川県技術・家庭科研究会 事務局次長)  
講演会終了後、講師の先生方を囲んで意見交換会・懇親会を催した。高浪先生、川崎先生は本学 OB ということもあり、学生からの質問に対して率直な意見交換を行って頂いた。また、影山先生は比較的学生と年齢が近いこともあり、採用試験対策や自分の

初任時のお話など興味深いお話が伺えた。

ここでは、技術専門領域における取り組みについて取り上げたが、各専門領域においても、下記のような様々な取り組みがなされている。

- ・ 2 年 3 年の交流を設けた事前・事後指導
- ・ 卒業 1,2 年後の現職の卒業生による講演会
- ・ 指導主事をお呼びにした講演会
- ・ 学校現場で生じる課題への対応方策のレクチャー
- ・ 「横浜スタンダード・教育実習ノート」を基にしたプログラムの説明
- ・ 卒業生との交流会

教師の魅力を実感してもらおうと共に、教師の大変さも理解していく必要がある。大変さがあるからこそ、それを越えたところに教師の魅力があることを感得してもらわなければならない。そのためには、卒業生といかに連携し、交流を深めていくかが一つの方策である。また、中・長期的なカリキュラム改革を念頭に置きつつも、教員 1 人ひとりが学生と向き合い、その中で質的な指導を充実させていく必要がある。